

作者プロフィール

柚木 文夫氏

千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

武 甲 山 - 紅葉を求めて -

武甲山(シラジクボから)



10月末、奥武蔵・武甲山(1295m)に登った。秩父正面から見て石灰石の乱掘で大きく削られた山肌が痛ましい限りだが、かつて江戸期の絵師・谷文兆の「日本名山図会」にも登場した秩父屈指の名山である。

痛ましい武甲山(横瀬から)



朝8時半、西部秩父線横瀬駅から表参道の生川に向かって歩き始めた。30

分程歩いた頃に、後から来た中年男性の車に声をかけられ、有難く生川集落まで同乗させてもらった。1時間余の大モウケ。

時間の余裕が出来たので、先に小持山の紅葉見物に回ることにした。表参道の途中から左に入りシラジクボに向かう。森閑とした杉林の中のジグザグ登りで、10時半シラジクボの鞍部に飛び出した。ここに荷物をデポして小持山を往復する。小持山は

小持山の紅葉



登るにつれて鮮やかな紅葉が増えてくる。11時20分小持山。山頂を埋め尽くす紅葉は正に錦秋。紅葉を纏った武甲山の壮大な眺めもまた格別の趣き。12時シラジクボに帰り着いて昼食休憩後、武甲山に向かった。伐開した明るい尾根筋の登りを45分程で表参道と合流し、御嶽神社の社前が出る。神社の裏手を上がって、13時15分山頂展望台到着。山頂から見下ろす巨大な石灰採掘場の広がりには啞然とするばかり。採石作業車がケシ粒のように小さく見える。山頂広場には立派な円形の標定盤もあるが、眺望は残念ながらもうモヤっていた。



下山は浦山口へ向かう。先程の表参道合流点まで戻るとベンチがあり、紅葉に包まれた大持山・小持山の華麗な装いが手に取るように見えた。

長者屋敷ノ頭を過ぎて1時間程はのんびりした下り。しかし尾根の末端からは、橋立沢に向かい高低差約500mの大下降が待っていた。膝がガクガクになって14時半、やっと橋立沢の林道に出た。

後は車道をテクテク歩き途中、二十八番札所の橋立寺と橋立鍾乳洞を見物したりして午後4時、浦山口駅にたどり着いた。

